



「子どもコンプライアンス」

山本 一宗 著
どんぐり。イラスト
ワニブックス 所蔵館 興

著者である山本一宗さんはテレビ局で働いている。そこで経験したことをもとにして“情報を正しく理解しうまく使いこなすこと”、“そして情報によって自分でしっ

かり考えて判断するために知っておいたほうがいいこと”を説明している。

「デジタルタトゥー」「SNS」「リテラシー」「ディープフェイク」「ステマ」を例にあげて小学生でもわかるような漢字以外はひらがなを多用して言葉の意味を述べている。私たちはこれらの言葉をどれだけ正確に理解して使っているだろうか。

信頼できる根拠とは何か？ 自分の考えと異なる意見や見解に耳を傾けることの大事さがまだ広まっていないのではないかと著者は警鐘を鳴らしている。

LEAF
NODA CITY LIBRARY YOUNG ADULT CORNER

No. 19

スマホの向こうに 広がるセカイ



便利な道具も使い方次第！

「スマホ脳と運動脳」

高橋 英彦 監修
ニュートンプレス
所蔵館 南



SNSや動画配信サイトなど沢山の魅力あるコンテンツが気軽に楽しめるスマホ。生活に便利な情報をスピーディーに得ることができ、私たちの暮らしに欠かせないものになっている。空いている時間に少しだけスマホを見ようと手にしただけなのに気づくと驚くほど時間が過ぎていた経験はないだろうか。その理由には、私たち人間の脳のしくみと深い関係があることがわかっていく。スマホと脳との関係を知り、上手にスマホを使いこなそう。

また、この本では脳と運動の関係性にも着目し、脳が運動をコントロールするしくみや運動が脳に及ぼす影響などを解説している。

「君色パレット SNSで繋がるあの人」

如月 かずさ、おおぎやなぎ ちか、朝比奈 あすか、佐藤 まどか 著
シリーズ他あり
岩崎書店 所蔵館 興



“ネットの言葉は本当に君を想っているのだろうか”。4つのショートストーリーの一編である朝比奈あすか著「にぎやかな孤独」の舞台は小学校。小学6年生の亜美は学校の先生から授業中にかけての言葉が腹立たしくてしかたがない。またクラスの同級生のユアは1人じゃなにもできない。トイレさえもついてくる。

家に帰ればお母さんはいつもいないし、お腹が空いても電話すると怒られるときもある。

鬱々とした日々から亜美はSNSアプリにはまっていく。人に頼りたいのに頼れないで疲れてしまう主人公の姿に私たちは共感せずにはいられないだろう。

図書館のHPでも、「LEAF」が見られるよ！
投稿フォームもあるから、
中学生・高校生におすすめしたい本があったら、
こっそり教えてね。
ホームページのURLは
<http://www.library-noda.jp/>
だよ。一度のぞいてみてね。



問合せ先

興風図書館 7123-7611
南図書館 7125-7981
北図書館 7129-8811
せきやど図書館 7198-4946

発行：野田市民図書館YAサービス 2024. 7



「何者」
朝井 リョウ 著
新潮社
所蔵館 全館

主人公拓人と、その同居人の光太郎、光太郎の元恋人の瑞月、拓人と同じアパートに住む瑞月の

留学仲間の理香と恋人の隆良。5人は、就職活動の対策仲間として、集まるようになるが……。

互いにみせる表情や会話、心に秘めた思い、SNSで発信することば。それらのギャップが、5人の関係に変化をもたらす。

「理解する」とはどういうことか。情報にあふれた現代で、悩みなながらも、前に進もうともがく、彼らの姿に心打たれる。

第148回直木賞受賞作。



「SNSトラブル連鎖」

高橋 幹子, みうら かれん 著
NHK「オトナへノベル」制作班 編
金の星社
所蔵館 北せ

NHK Eテレの番組「オトナへノベル」で放送されたドラマの原案小説をまとめたもの。番組では、

10代の若者の悩みや不安に思っていることをとりあげて、一緒に考えて解決にみちびく手がかりを探していく。

SNSに関わる人間関係のトラブルをテーマにした「チェーンワールド」「たりない言葉」「ゆがんだ鏡」の3話が収められている。グループチャット、文字だけのやり取り、断片的な情報から物事を判断するリスクや、思い込みによる友達とのすれ違い、ネットに写真をあげることで強まる容姿の悩みなどの問題を解決するためのアドバイス。SNSで人間関係に悩みを感じた時、この本を読むとヒントをもらえるだろう。

「SNSの哲学」

戸谷 洋志 著
創元社
所蔵館 せ



X (旧Twitter)・TikTok・Instagram・Facebook・LINE……、現代生活を楽しく便利に送るためにも、SNSが欠かせないという人は多いよね。でも、SNSを使いこなしている人が、SNSを“理解”しているかという、話は別だ。“なぜSNS疲れを感じるのか”、“タイムラインとストーリーで共有するものの違いはなにか”、“クソリプは何故不快なのか”、“自分に届く情報が機械的に取捨選択されている怖さ”など、きみは本当に“理解”しているかな？ 人に聞かれたとき、自分の言葉で説明できるかな？ “わかったつもり”になる前に、一度じっくり哲学してみよう！

「しくじりから学ぶ13歳からのスマホルール」

島袋 コウ 著
旬報社 所蔵館 興北



本書は実際に起きたネットの事件や炎上を例にあげてネットのルールをしくじりから学ぼうというもの。

おもしろ半分で迷惑行為を撮影し、投稿した動画に非難が殺到して炎上。

悪者をこらしめてやる！ と個人を特定する「特定班」や、英雄気取りの「ソーシャル・ジャスティス・ウォリアー（ネット上の正義の戦士）」が学校や会社にクレームを入れ、停学や就職内定取り消しにまで追い込む。さらには個人情報等を公開して叩くネット私刑が深刻化している。

事の発端は迷惑行為を行った投稿者だが、ネット私刑の観点からは「被害者」になり、私刑に加担した部外者が「加害者」になる負のスパイラルが起きている。

そもそも迷惑行為をしない、炎上を煽らない事がマナーだろう。投稿する前に一度立ち返ることを肝に銘じたい。

「最新ネットのキーワード図鑑」

島袋 コウ 監修
旬報社
所蔵館 北せ



インターネットでよく聞くキーワード「ゲーム」「SNS」「情報リテラシー（知識を活用する力）」「ストレスケア」「動画サイト」「サイバー犯罪」を6つの章に分けて紹介している。

それぞれの章をじっくりと読み込むだけでなく、興味のあるキーワードを拾い読みしてもいい。一部のキーワードには関連ワードや参考サイトのQRコードがついており、さらに知識を深めることができる。5章・6章の最後にあるクイズに挑戦して、インターネットの知識が身についたか確かめよう。

情報モラルとリテラシーを身につけて、楽しいインターネット・ライフを！



「中学校の授業でネット中傷を考えた」

宇多川 はるか 著
講談社 所蔵館 せ

1999年、お笑い芸人のスマイリーキクチさんが、殺人犯であるとネット上に書き込まれたことを発端に、何年間も誹謗中傷を受け続けた。2020年には、女子プロレスラーの木村花さんが、SNSでの炎上の末に亡くなった。

これらの事件を議題にして私立開成中学校で行われた、ネット中傷についての授業を完全再現。国語教諭が生徒に何を考えてもらいたいと思ってこの授業を行ったのか。生徒はこの授業をどう受け止めたのか。記者でもある著者はこの授業を通して何を考えたか。

正義感・匿名性・承認欲求からくる、「手軽な加害と深刻な被害」を考える一冊。

「気をつけよう！ ネット動画」

小寺 信良 監修
シリーズ全3巻
汐文社 所蔵館 興



やらなきゃいけないことがあるのに、食事や睡眠を削ってまで動画を見てしまう。授業に集中できない。スマホを片時も手放せない。

心当たりのある人はネット依存の傾向があるかもしれない。依存の怖いところは、自分をコントロールできなくなってしまうこと。依存しているもの以外どうでも良くなって、大切な人との関係が悪化し、健康を害してしまうことだ。

では、どうすればいいのか。まずはルールを決めて使うこと。そして最も効果的なのは、リアルな生活を充実させて必然的にスマホに触る時間を減らすというもの。

もはや生活に溶け込んでいるスマホ（ネット）を否定するのはナンセンス。それよりも、私たちがどう使うかに焦点を当てて考えていく必要があるだろう。